

2016年10月
1111号

万葉

Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

尾崎行雄記念財団設立60周年「感謝の集い」 ～国民の寄付で作られたことの意味をかみしめて～

冷たい雨に冬の訪れも近い事が感じられた10月28日、憲政記念館の会議室にはその冷たさを吹き飛ばす熱気が渦巻いておりました。尾崎行雄記念財団設立60周年「感謝の集い」が開催されたのです。一冊の会のメンバーもお祝いに駆けつけました。

一冊の会理事長でもある尾崎行雄記念財団石田尊昭理事・事務局長より開会の発声があり、本日この場には尾崎行雄の選挙区であった三重県伊勢市で活動する「NPO 法人罌堂香風」、尾崎行雄の出身地神奈川県相模原市で活動する「尾崎行雄を全国に発信する会」、そして尾崎行雄の三女である相馬雪香の草の根交流と支援の精神を継ぎ東北被災地支援等を行っている「NPO 法人一冊の会」、この3つの団体、そして政治・経済・文化界関係の大勢の人が駆けつけている事を紹介いただきました。

会長である大島理森衆議院議長のご挨拶のあと、映像「尾崎財団60年の歩み」がお披露目されました。尾崎行雄記念財団は1956年の設立以来、衆議院議長が会長をされております。広く一般から寄付を募り、現在の憲政記念館の前身「尾崎記念会館」の建設に至ったことなどが、設立当時のヒット曲「ケ・セラ・セラ」にのせて紹介されました。そして、3つの団体に感謝状の贈呈があり、一冊の会への感謝状も大島会長から大槻会長が受け取らせていただきました。

また、「NPO 法人罌堂香風」土井孝子理事長に特別感謝状と記念楯が贈呈され、第七代花みずきの女王、準女王、親善大使(2名)のご紹介と女王のご挨拶がありました。尾崎行雄が東京市長であった折にアメリカに送った桜の返礼にウィリアム・タフト第27代米国大統領から贈られた花みずきにちなみ、伊勢近郊の女性から応募者をつのり1998年に初代「花みずきの女王」を選出し、ワシントンDCで開催される全米さくら祭りに参加しているそうです。また、「全米さくら



の女王」も毎年伊勢を訪問され、国際交流を幾重にも続けていらっしやるとのこと。

式典が終わりますと隣の部屋での懇親会に案内があり、そこには憲政記念館ができて 60 年営業を続け、近隣の官公庁やビジネスマンもよく利用されているレストラン「霞ガーデン」が用意してくださったお料理が並んでおりました。石田事務局長から 60 年間胃袋を支えてくれた感謝が述べられ、皆おいしい料理に舌鼓をうちながらいただきました。

今回、一冊の会からはレソト王国臨時代理大使スィカケコヤンガネ氏、佐藤啓太郎元アフリカ紛争・難民問題担当大使ご夫妻も共に参加いたしました。



第七代花みずきの女王と



レソト王国臨時代理大使と
佐藤啓太郎氏

懇親会には、罫堂塾出身の地方議員の方や、三重県の政治家を代表してなんと岡田克也元民進党代表も駆けつけてくださいました。

たくさんの方が集う様子を見て、尾崎行雄記念館の建設に大勢の政治家や国民が賛同し、銅像も彫刻家の権威であった朝倉氏がほぼ無償に近い形で造られたという、この場所の歴史を改めて噛みしめました。

石田事務局長は「この 60 年は、尾崎行雄の理念を基に民主政治の発展と世界平和に尽くそうという強い信念・志を持った人たちが紡いだ歴史です。それは、設立者や運営者のことではありません。この財団の活動に心から賛同し、惜しみない協力を頂いた会員や支援者のことです。」とおっしゃいました。

この度、「世界と議会」最新号（2016 年秋冬号）に尾崎行雄記念財団 60 周年協力者として私たちも載せていただきました。載せていただいたことに感謝し、しかしただ感謝するだけではなく、私たち一人ひとりが尾崎行雄の精神を伝えるという使命を帯びていることを自覚していかななくてはならないと、改めて感じました。今後も自ら考えながら行動していくことを決意いたしました夜でした。



赤田研究員